

平成28年度 企画理事 運営目標

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
1	<p>～もうひとつの京都プロジェクト～【森の京都】 市町村、地域と一体となって「森の京都博」を開催し、森に育まれたライフスタイルや文化、自然の魅力を発信し、新たな交流を巻き起こし、地域の持続的な発展に向けた拠点整備とそれを活かした住民活動のサポートを強化します。</p>		
	<p>【全体マネジメント】 森の京都博の開催を通じて、これまで森の京都のエリアに足を運んだことのない方々にとっても魅力的な多様な交流機会を用意し、森に育まれたライフスタイルや文化、自然の魅力を広く発信することにより、住民が自ら新たな価値を発見し、地域の良さを再認識する中で、地域の持続的な発展に向けた拠点整備とそれを活かした住民活動等のサポートを強化します。 森の京都の地域商社「森の京都DMO」を年内に設立し、地域製品のブランド化と販売強化、観光振興など「森の京都」をテーマにした地域づくりにつなげ、地域の稼ぐ力を創出します。</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じた森の京都博の開催 <200回以上(28新規)> ○地域ニーズに応じて、住民・実践者等によるマスタープランの実現に向けた実践戦略づくりに専門家を派遣<50回以上> ○マスタープランに基づく森の京都事業の実施 <60事業(27実績:57事業)> ○地域づくり等の実践者の掘り起こし・育成 <100人(27実績:115人)> 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた森の京都博の開催<332回(166%)> ・マスタープランの推進に係る専門家派遣<89回(178%)> ・森の京都事業の実施<55事業(92%)> ・実践者掘り起こし・育成中<52名(52%)> <p>【未達成の要因・理由】ワークショップ等への参加者を「実践者」とカウントしているが、既に実践段階にある事業も多く、必ずしもワークショップ等の形式を取らなかったため</p>
達成手段 (数値目標)	<p>【森の京都博】</p> <p>○「森の京都博」メインイベント4回</p> <p>①スプリングフェス(森の京都博×mer☆ガールズFes)を開催し、森の京都の魅力を全国に向け強かにアピールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6市町を巡る「森の京都体験ツアー」<3コース150人(28新規)> ・ガールズミーティング、ファッションショー<1,000人(28新規)> ・「森の京都」マルシェ、まち歩き<2,000人(28新規)> <p>②サマーフェス(全国キッズダンスフェスティバルin森の京都)を開催し、表現活動を通じて小中高高校生達が森の大切さを学び発信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予選大会 <南丹市、京丹波町、綾部市、京都市右京区京北 2,000人(28新規)> ・決勝大会、「森の京都」マルシェ <福知山市 2,000人(28新規)> <p>③「第40回全国育樹祭」を開催し、次世代へつなげる京都の森の文化を府内外に発信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演する地元小中高高校生 <300人以上(28新規)> ・イベント開催数、交流人口 <6回、延べ3万人以上(28新規)> ・「全国育樹祭」会場に設置するメッセージ <5,000枚(28新規)> ・府民参加の森づくり活動参加者 <延べ20,000人(28新規)> ・緑の少年団の新規設立 <3団体(28新規)> <p>④テイクオフ(ウインター)フェスを開催し、地域の誇りを喚起し、「森の京都」を未来へ向けて発信します。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・6市町を巡る「森の京都体験ツアー」<3コース83人(55%)> <p>【未達成の要因・理由】前日の悪天候によりキャンセルが相次いだため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガールズミーティング、ファッションショー、マルシェ<1,500人(150%)> ・まち歩き(亀岡駅前100円商店街等)<3,500人(175%)> ・キッズダンスフェスティバル予選大会を開催(7/16、17、23、24)<南丹市、京丹波町、綾部市、京都市右京区京北4会場 計2,000人(100%)> ・キッズダンスフェスティバル決勝大会を開催(8/27・福知山市)、「森の京都」マルシェ、アウトドアチャレンジなど併催<3,000人(150%)> ・出演する地元小中高高校生<529名(176%)の小中高大学生が出演> ・イベント開催数<6回(100%)、11,731人> ・交流人口<70,726人(235%)> ・「全国育樹祭」会場に設置するメッセージ<5,000枚(100%)> ・府民参加の森づくり活動参加者<529名(176%)> ・緑の少年団の新規設立<3団体(100%)> ・テイクオフイベント(3/20)参加者数<20,000人(メイン会場、サブ会場合計)> ・「もうひとつの京都音楽祭」、森のごちそうゾーン、森の体験ゾーン、森の手作り市、ウィードの森散策などを通じて、森の京都の幅広い魅力を内外へ発信

	運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>○「森の京都博」市町村・地域イベント <200回以上(㊟新規)> (主なイベント例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀岡市:第44回亀岡光秀まつり(亀岡城下町一円) ・南丹市:京都「ひよし新緑祭」(スチールの森 京都) ・京丹波町:京丹波森のぶるぶ(須知高校「ウィードの森」) ・福知山市:小林章男の世界・瓦の魅力(ハピネスふくちやま) ・綾部市:里山体験プラ 里山ねっと・あやべ(綾部市里山交流研修センター) ・京都市右京区京北:エコツアーin京北(京北森林公園) <p>○「森の京都博」HP開設更新、ガイドブック発行を通じて、地域、市町村の取組について情報発信するしくみを構築<ガイドブック発行 4回(㊟新規)></p>		<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた森の京都博の開催<332回(166%)> ・「森の京都博」HP開設済(H28.4)。市町と協働でイベント情報など随時更新するとともに、内容を運動させたガイドブックを四半期ごとに4回発行(100%)
③	<p>【DMO関連事業】</p> <p>○地域の総力を結集して、観光まちづくりを効果的かつ強力に推進する組織として、「森の京都DMO(仮称)」の設立を推進</p> <p>○森の京都地域全体の観光情報を一元的に集約・情報発信する仕組みの構築 (ex.宿泊施設等受入体制の情報収集など)</p> <p>○エコ・グリーン・スポーツなど地域資源を活用した着地型商品の開発 <100ツアー造成(㊟新規)></p> <p>○販売・予約システムの構築による販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型旅行商品 ・農家民宿等の斡旋(特に、修学旅行等へのアプローチを強化) ・地域の特産品 <p>○食をはじめとした地域産品のブランド化</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人森の京都地域振興社(森の京都DMO)を設立(3/21) ・旅行商品や宿泊施設予約等の情報を一元的に集約・情報発信する仕組みとして、森の京都総合ウェブサイト構築(3/27) ・100の着地型旅行商品・体験プログラム案を作成(100%) →H29年度に森の京都DMOにおいて販売予定 ・森の京都総合ウェブサイト内に販売・予約機能を実装 ・農家民宿等の斡旋は、エリア内任意団体との協力により販売体制の強化に取り組み済 ・乙訓物産展でのPR(H28.9)、さば寿司さみっと開催(H28.11)等により取り組み済
④	<p>【豊かな「森」の自然環境・景観の維持・保全】</p> <p>○「森の京都」の中核的資源である京都丹波高原国定公園の適切な利活用(ワズユース)を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元関係者等によるプラットフォームを組織し、世界中から一度は訪れたいと思う公園をめざし、自然環境保全と利活用を一体的に推進します。 ・素晴らしい自然を世界に向けて発信していく広報物の作成に向けて取組を進めます。 ・地元や旅行者と連携し、地域住民や自然とふれあい、自然の大切さを再認識できる新たな「エコツアー商品」を開発します。 <新規ツアーの商品化 4本(㊟新規)> 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツアーガイド団体、京都大学等と協議を重ね、ワズユースを一元的に進める「芦生もりびと協会」を設置 ・京都丹波高原の自然や文化を映像等(中国語、英語、日本語)で伝えるアプリ(コンテンツ)作成を平成29年度に実施(予算化) ・新規ツアーを4本実施(100%) ・ファミツアーを実施(3/15) ・体験内容等を一覧で紹介するリーフレットを作成
⑤	<p>【「森の京都」スタイルの生活の再定義・発信】</p> <p>森の恵みを活かした食や伝統文化、産業など森に包まれた暮らし方である「森の京都」スタイルの情報発信、グリーンツーリズム・観光など新たな森林ビジネスの創出等により地域資源の貨幣価値化(雇用創出や所得確保等)を図り、定住・半定住を促進します。</p> <p>○森の京都探訪記事事業を通じて発進力のあるクリエイターが地域に入り、「森の京都」スタイルの暮らし方や生業に光を当て、将来にわたり活用が可能な探訪記として編集出版、訴求力のある媒体により広く強く長期に情報発信を行う。</p> <p>○森の京都エリアで暮らす「地元出身者」「移住者」「Uターン者」取材したテレビ番組を作成し、森の京都の暮らしの魅力を発信する。 (移住促進(「もうひとつの京都」共通))</p> <p>○「京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例」の制定を契機に、地域の新たな担い手となる移住者の確保と耕作放棄地の再生・活用を推進し、地域再生を加速させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府の支援による農家民宿開設数 <累計80軒(㊟実績:累計71軒)> ・農山漁村地域等に移住した都市住民等の人数 <400人(㊟実績:288人)> ・農山漁村地域等における空家の利活用数 <100件(㊟実績:142件)> ・空家と農地の一体活用 <7計画(㊟新規)> ・耕作放棄地(再生可能な農振農用地)の解消面積 <80ha(㊟実績:集計中)> 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンタリーブック「森の京都探訪記」及びドキュメンタリー映像を作成(3/20)、森の京都博テイクオフイベントでお披露目するとともに、ホテル・ラウンジ等へのプロモーション、森の京都写真展の開催等も通じ情報発信中 ・BS-TBSで森の京都特集番組を制作し、森の京都の暮らしの魅力を発信(7/24放送) ・府の支援による農家民宿開設数<76軒(95%)> ・農山漁村地域等への移住者数<326人(82%)> <p>【未達成の要因・理由】移住希望者の希望に沿う賃貸空家が少なかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空家の利活用数<143件(95%)> ・空家・農地一体活用事業等による支援<2計画を支援(29%)> <p>【未達成の要因・理由】移住促進特別区域内で事業に適した空家登録が少なかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地(再生可能な農振農用地)解消面積<91ha(114%)>

	運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>【新京都伝統工芸ビレッジ構想】 ○新光悦村に整備した移動式の職人工房を活用し、若手職人の販売や交流機会をつくるなどの支援を行うとともに、工芸関係者の新光悦村への誘致を進めます。 ＜森の京都博in新光悦村等の来場者数：1,000人(㉔新規)＞ ＜新規企業立地(新光悦村)：2件＞</p>		<p>・森の京都博in新光悦村等の来場者数<600人(60%)> 【未達成の要因・理由】悪天候での開催であったため ・新規企業立地(新光悦村)<0件(0%)> 【未達成の要因・理由】有望案件は複数あったが、企業の事業計画検討に時間を要するため年度内には契約に至らず、年度を超えた現在も交渉中であるため</p>
⑥	<p>【森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくり】 森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくりを進め、交流産業の振興による地域経済への波及効果の創出等を実現します。 ○道の駅や宿泊施設等の拠点施設の整備促進 ・大江山グリーンロッジ ・里山交流研修センター ・美山自然文化村 ・美山ふれあい広場 ・日吉山の家 ・瑞穂の里さらびき ・亀岡市交流会館 ○廃校施設等への民間資本による宿泊施設等の誘致を推進</p>		<p>・大江山グリーンロッジ →施設整備中(浴室・トイレ付部屋) ・里山交流研修センター →交流体験施設(森もりホール)を木造建設済 ・美山自然文化村 →周辺施設整備済(散策歩道整備) ・美山ふれあい広場 →施設整備の検討 ・日吉山の家 →民間若手経営者がBBQプランなど宿泊プランを展開 ・瑞穂の里さらびき →トイレ整備済 ・亀岡市交流会館 →「森のステーション」として体験・交流型施設に一部改装済 ・森の京都博イベント(さば寿司さみっと)の会場として活用するも、民間資本誘致は実現できず。 【未達成の要因・理由】地元調整が整わなかったため</p>
	<p>○「里の公共員」の配置し、持続・発展する地域づくりを推進(「もうひとつの京都」共通) ・<里の公共員の配置：累計10地区(㉗実績：8地区)> ○美しい農山漁村景観や農産物等の地域資源を活用した都市農村交流やビジネスおこしの取組を展開 ・<「命の里」農山漁村里力再生事業 取組地区：累計70地区(㉗実績：累計62地区)> ○農山漁村の地域資源を活かした都市農村交流を促進(「もうひとつの京都」共通) ・<府の支援による農家民宿開設数：累計80軒(㉗実績：累計71軒)> ・<農家民宿の宿泊者数：5,800人(㉗実績：4,540人)> ○古道などの資産整備、観光誘客等に活用 ・大江山(復活！元伊勢古道と石畳古道) ・奥上林(ほら！トレッキングルート) ・大江山を光で見せるプロジェクト<参加者 延1,000人(㉔新規)> ○森の京都の「食」の開発 ・<京都丹波ジビエフェア参加店：50店(㉗実績：41店)> ・京都丹波ジビエ認証制度の創設 ○あうる京北で「森の芸術祭」として、生涯学習の成果の発表や森の美術展、けいほくらフト等を開催し(9月～11月)、地域文化の魅力を発信 ・<会期中入場者数：10,000人(㉔新規)> ○「市町村景観整備支援事業」「府民公募型整備事業」及び「地域構想推進美観事業」を連動させ、「森の京都」の統一コンセプトに基づいた魅力ある景観形成を推進します。 ・景観支援事業<府域全体で50カ所(㉔新規)> ・府民公募型整備事業(もうひとつの京都枠)<府域全体で20カ所(㉔新規)> ・地域構想推進美観事業<府域全体で15施設以上 (㉗実績：9施設)></p>	○	<p>・里の公共員の配置<累計10地区(100%)> ・「命の里」農山漁村里力再生事業取組地区<累計64地区(91%)> ・府の支援による農家民宿開設数<76軒(95%)>、宿泊者数<6,087人(105%)> ・元普甲道毛原峠整備完了、石畳古道整備計画策定 ・洞峠・古屋トレッキングルート整備計画策定、整備実施、案内看板設置 ・「大江山万燈絵巻」実施<参加者延べ2,190人(219%)> ・京都丹波ジビエフェア参加店数<78店舗(156%)> ・ジビエハンター養成の仕組み創設 ・食肉処理施設認証制度構築、認証施設なし 【未達成の要因・理由】制度構築には至ったが、認証にあたっては一定の公募期間を要するとともに事業者等との調整に時間を要したため ・飲食店登録制度構築、登録店舗なし 【未達成の要因・理由】制度構築には至ったが、登録にあたっては一定の公募期間を要するとともに事業者等との調整に時間を要したため ・会期中入場者数<9,642人(96%)> ・市町村景観整備支援事業<26箇所(52%)> 【未達成の要因・理由】市町村からの申請が少なかったため ・府民公募型整備事業<24箇所(120%)> ・地域構想推進美観事業<府域全体で10施設(67%)> 【未達成の要因・理由】機会を捉えて周知を図ったが、実質的に今年度に初めて対象となった森・お茶エリアでの申請が伸びなかったため</p>

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>(ネットワーク化)</p> <p>○京都縦貫自動車全線開通を活かし戦略拠点等への高速バス等の増便</p> <p>○戦略的交流拠点エリア及び拠点間の整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都広河原美山線(美山町)2車線改良の事業完了 ・園部平屋線(殿田)、小西西坂線(鍛冶屋)・綾部宮島線(脇谷バイパス)の事業推進 ・綾部大江宮津線歩道整備等推進(地域主導) <p>○森の京都エリア(山陰本線(園部～綾部))の公共交通網の整備に係る法定協議会の設置及び地域公共交通網形成計画の策定</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略拠点等への高速バス等の増便<未実現> <p>【未達成の要因・理由】事業者との調整が整わなかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都広河原美山線(美山町)2車線改良の事業完了(H28.10) ・園部平屋線(殿田)、小西西坂線(鍛冶屋)・綾部宮島線(脇谷バイパス)の事業推進中 ・上夜久野停車場線の道路拡幅等整備推進(地域主導) ・JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通網形成計画(京都府、綾部市、南丹市、京丹波町)策定済(H29.3)
⑦	<p>【「森の京都」ターゲットイヤーを契機とした林業の新たなステージ】</p> <p>～川下対策～</p> <p>府内産木材の率先利用を進め、公共施設や民間施設における需要を拡大するとともに、府民に対し木材利用や木の文化を発信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウッドマイルージCO2」認証等製品出荷量 <23,700m³(㉗実績:18,108m³)> ・民間の商業施設等における府内産木材のモデル的利用件数 <10件(㉘新規)> ・新たな木製品の開発・PR <5件(㉘新規)> ・新国立競技場建設への府内産木材の利用 ・府内産木材販売促進会議(仮称)の開催 <2回(㉘新規)> ・森林文化マップの作成 <p>～川中対策～</p> <p>府内完結型の木材産業体制の構築のため、大型加工施設の立地や木材加工流通施設整備、原木のストック体制の整備を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CLT製造施設立地プロジェクトチームによる立地箇所の決定 ・平成29年度事業での施設整備に向けた計画策定 ・林業高度化センターを介した府内産木材流通量:39,900m³(㉗実績:25,386m³) ・原木ストックの仕組みを構築:1箇所(㉘新規)> ・既存製材工場の生産・加工能力の強化:2箇所(㉘新規)> <p>～川上対策～</p> <p>府内の森林資源の多くが伐期を迎える中、丹波広域基幹林道沿線エリアを中心として木材の集中搬出を実現するとともに、多様な森づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内産素材生産量 <23.7万m³(㉗実績:集計中)> ・木材生産モデル地区(林業クラスター)の設置 <4箇所(㉘新規)> ・作業路網の開設 <145km(㉗実績:集計中)> ・協業化により、協同して森林整備に取り組む事業体 <22事業体(㉗実績:20事業体)> ・花粉の少ないスギ・広葉樹等の植栽 <25ha(㉘新規)> ・うるし採取園造成 <2箇所(㉘新規)> 	○	<p>～川下対策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウッドマイルージCO2」認証等製品出荷量<調査中(6月頃判明予定)> ・民間の商業施設等における府内産木材のモデル的利用件数<14件(140%)> ・新たな木製品の開発・PR<6件(120%)> ・新国立競技場建設への府内産木材の利用 調達資材は未決定 ・府内産木材の活用促進懇談会の開催<2回(100%)> ・文化マップ作成済 <p>～川中対策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地箇所の決定済 ・平成29年度事業での施設整備に向けた計画策定済 ・林業高度化センターを介した府内産木材流通量<調査中(6月頃判明予定)> ・原木ストックの仕組みを構築<1箇所(100%)> ・既存製材工場の生産・加工能力の強化<2箇所(100%)> <p>～川上対策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内産素材生産量<来年度調査> ・林業クラスターの設置<4箇所(100%)> ・作業路網の開設<7月頃集計予定> ・協業化に取り組む事業体<23事業体(105%)> ・花粉の少ないスギ等の植栽<0.5ha(2%)> <p>【未達成の要因・理由】木材価格の低迷により森林所有者が予定していた伐採を延期し植栽が進まないため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うるし採取園造成<2箇所(100%)>

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑧	<p>【「森の京都」の魅力の効果的プロモーション・観光誘客の推進</p> <p>○「森の京都博」の実施<メインイベント4回、市町村・地域イベント200回(28新規)>【再掲】</p> <p>○「森の京都博」の中核イベントとして、「第40回全国育樹祭」を開催し、次世代へつなげる京都の森の文化を府内外に発信します。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演する地元小中高生 <300人以上(28新規)> ・イベント開催数、交流人口 <6回、延べ3万人以上(28新規)> ・「全国育樹祭」会場に設置するメッセージ <5,000枚(28新規)> ・府民参加の森づくり活動参加者 <府民参加の森づくり活動参加者:延べ20,000人(27実績:延べ15,000人)> ・緑の少年団の新規設立 <3団体(28新規)> <p>○「森の京都」の魅力観光資源として情報発信し、「森の京都」のブランドイメージの形成と観光誘客を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の総力を結集して、観光まちづくりを効果的かつ強力に推進する組織として、「森の京都DMO(仮称)」の設立を推進 ・観光事業者、出版社、交通事業者等と連携した特集記事掲載の共同企画<10企画(27実績:4企画)> ・「森の京都観光ツアー」の実施<5企画(27実績:3企画)> <p>○「森の京都博」HP開設更新、ガイドブック発行を通じて、地域、市町村の取組について情報発信するしくみを構築<ガイドブック発行 4回(28新規)>【再掲】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「森の京都博」メインイベント<4回> ・市町・地域イベント<265回・H28.12現在(133%)> ・出演する地元小中高生<529名(176%)の小中高大学生が出演> ・イベント開催数<6回(100%)> ・交流人口<70,726人(235%)> ・「全国育樹祭」会場に設置するメッセージ<5,000枚(100%)> ・府民参加の森づくり活動参加者<集計中> ・緑の少年団の新規設立<3団体(100%)> ・一般社団法人森の京都地域振興社(森の京都DMO)を設立(3/21) ・特集記事掲載の共同企画<14企画(140%)> ・「森の京都観光ツアー」の実施<14企画(280%)> ・「森の京都博」HP開設済(H28.4)。市町と協働でイベント情報など随時更新するとともに、内容を連動させたガイドブックを四半期ごとに4回発行(100%)
	<p>○スポーツ観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都トレーニングセンターの開設にあわせ、親子が楽しめる「京都丹波キッズスポーツふれあい広場」を開催<来場者数 1,000人(28新規)> ・「京都丹波国定公園」において、市町、NPO、地元団体と協働し、ファミリー層や外国人をターゲットにウォーキングイベント(11月3日美山)を開催 <来場者数 500人(28新規)> ・木工、スポーツグッズ、食の販売など「森の京都商店街」を地元商工会等と協働開催(京都丹波トライアスロン大会賑わい創出)(8月27日、28日大堰川緑地公園)<参加者・来場者数 10,000人(28新規)> ・スポーツと観光を組み合わせた体験プログラム開発<開発数 8件(27実績:6件)> ・アグリスポーツの開催<3回(27実績:5件)> ・京都丹波トライアスロン大会 <参加選手数 300人、観客数 7,000人(27実績:3,000人)> ・京都トレーニングセンター(仮称)の利用者数 <9,000人(28新規)> ・SEA TO SUMMITの開催等アウトドアスポーツ愛好家の誘客<参加者 3,200人(27実績:3,077人)> ・JAPAN ECO TRACK によるアウトドアスポーツフィールドの魅力を全国に発信<記事掲載等:5件(28新規)> 		<ul style="list-style-type: none"> ・「京都丹波キッズスポーツふれあい広場」の開催<来場者3,000人(300%)> ・「京都丹波高原国定公園」におけるウォーキングイベントの開催<来場者664人(133%)> ・「森の京都商店街」の開催<参加者・来場者数10,000(100%)> ・スポーツと観光を組み合わせた体験プログラム開発<8件(100%)> ・アグリスポーツの開催<2回(67%)> ○【未達成の要因・理由】地元のイベントと同時開催を予定していたが、雨天によりイベントが中止され、再設定の調整も整わなかったため ・京都丹波トライアスロン大会<参加選手数513人、観客数約1万人(144%)> ・京都トレーニングセンターの利用者数<2,033人(23%)> ○【未達成の要因・理由】競技団体や学校等へのPR等が不足していたため ・SEA TO SUMMIT参加者数<4,060人(127%)> ・記事掲載<6件(120%)>

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
2	<p>～もうひとつの京都プロジェクト～【お茶の京都】 戦略拠点施設・日本遺産構成文化財等を活用し、「お茶の京都」ターゲットイヤーに向けて取組を具体化させます。</p>		
	①	<p>【全体マネジメント】 各市町村のマスタープランを踏まえ、戦略拠点、日本遺産を中心に持続可能なお茶・観光産業等の振興を図るため、ターゲットを絞ってお茶の京都博(仮称)の準備を完了します。 「お茶の京都・DMO」を年内に設立し、各市町村の戦略拠点や観光客の受入体制の整備などと連携し、「広域観光振興」、「宇治茶のプレミアムブランド化」「農業観光」など地域の稼ぐ力を創出します。</p> <p>○全体イベント計画の策定、メディア事前プロモーション実施、公式イベントガイド作成 ○お茶の京都博覧会実行委員会(仮称)、各市町村イベント実行委員会の設置・ワークショップ・実行委員会の開催<50回(28新規)> ○各戦略拠点ごとの実践者会議による施設整備、市町村コアイベントの企画<12箇所(28新規)> ○各市町村ごとに都市間連携ができるよう国際交流を推進<12市町村(28新規)></p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶の京都博開催中 ・3月DMO「一般社団法人京都山城地域振興社」設立済 ・11月下旬パリにて宇治茶プレミアムプロモーション実施し、アソシエーションを設置
	②	<p>【プレイベントの開催】 ターゲットイヤーに向けて、プレイベントを通じた宇治茶の魅力発信と地域の機運を醸成します。 ○「関西茶業振興大会京都大会」<参画団体数:6団体、来場者数:5万人(28新規)> ○「Uji-CHA Fair 2016」を山城各地で開催 <60回(28新規)> ○台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(28新規)> ○「宇治茶ムリエ」認定者(新規認定者含む)を対象に「King of 茶ムリエ」大会を開催 <1回(28新規)> ○市町村ごとにプレイベントを実施<12回以上(28新規)></p> <p>・宇治茶まつりとコラボしたPR実施(宇治市) ・復活する「秋花火大会」でのPR企画の実施(城陽市) ・クロスビア・ミニコンサートとのコラボ企画の実施(久御山町) ・石清水八幡宮、松花堂庭園、四季彩館を活かした茶会の実施(八幡市) ・町制60周年記念イベントとのコラボ企画実施(宇治田原町) ・ツアー・オフ・ジャパンと連動した企画、実施(京田辺市) ・まちづくりセンター椿坂における「玉水企画」の実施(井手町) ・全国ご当地鍋フェスタでのプレイベント実施(笠置町) ・茶源郷まつりにおける料理コンテストの実施(和束町) ・キツガワゴン(リアカーゴ)を活用したプレイベント実施(木津川市) ・けいはんな公園での移動式販売車等を利用したイベント開催(精華町) ・道の駅オーブンと連動した、プレイベントの企画、実施(南山城村)</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画作成済、首都圏PR実施済、PRチラシ作成済 ・お茶の京都博実行委員会設置済 ・各市町村イベント実行委員会等を開催<149回(298%)> ・12市町村でエリアイベント等を企画<12箇所(100%)> ・城陽市等諸外国との交流推進中<7市町村(58%)> <p>【未達成の要因・理由】市町の姉妹都市がお茶との関連性が低いところがあり、市町の予算確保ができなかったため</p>
達成手段 (数値目標)		<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「関西茶業振興大会京都大会」 ・イベント参画団体数:10団体(166%) ・来場者数:2.5万人(50%) <p>【未達成の要因・理由】併せて開催する予定であった大学生とのイベントが中止となったため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UJI-CHA Fair:67回(112%) ・商談会:7回(70%) <p>【未達成の要因・理由】プロモーション活動が不十分であったため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・King of 茶ムリエ:1回(100%) ・市町村ごとにプレイベントを実施 ・市町村イベントにおける、ロゴマーク提示や呈茶、チラシ配布、バナー提示等によるPR実施(11市町村:92%) (宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村) 	

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
③	<p>【DMO事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お茶の京都地域全体の観光、地域資源情報を一元化的に集約・情報発信する仕組みの構築 ○宇治茶のブランド管理、プレミアムブランド化の推進(富裕層向け旅行商品・体験型コンテンツの開発) ○マーケティング・ニーズ調査 ○着地型・体験型旅行商品の開発 <100ツアー造成(20新規)> ○観光農業等のブランド化 ○販売・予約サイトシステムの構築による <ul style="list-style-type: none"> ・着地型・体験型旅行商品の販売促進 ・食をはじめとした地域特産物の販売促進 ・農家民宿等の斡旋(特に、修学旅行等へのアプローチを強化) ○人材の育成支援(地域交流型ビジネスの起業希望者(ネット販売含む)、観光ガイド等) ○公共交通ネットワーク改善・整備の企画・推進 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・3月DMO「一般社団法人京都山城地域振興社」設立 ・観光地域資源情報:お茶の京都総合WEBを構築 ・ブランド化:パリでプロモーション11月実施し、宇治茶アソシエーション発足 ・マーケティング調査:GPS調査を実施 ・着地型旅行商品:100ツアー・体験プログラムを造成 ・観光農業等のブランド化:着地型旅行商品・体験プログラム造成 ・販売・予約サイト ・販売・予約サイト:構築。DMOが旅行業免許H29.5月取得後に実稼働 ・農家民宿等の斡旋方法等について検討中 ・人材の育成支援:H29年度の実施に向けた枠組について調整中 ・公共交通ネットワーク:エリア内を周遊するタクシープラン造成
	<p>【宇治茶の価値の再発見、景観やお茶文化の維持・継承】</p> <p>茶畑景観等を維持・継承し、宇治茶の価値の再発見・向上を図るため、日本遺産『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城」を地域住民に浸透させるとともに、世界文化遺産登録に向けた府民運動を展開するなど、お茶文化の振興、普及・拡大を図ります。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・茶畑景観等を維持・継承し、宇治茶の価値の再発見・向上を図るため、日本遺産『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城」を地域住民に浸透させるとともに、世界文化遺産登録に向けた府民運動を展開中
	<p>(茶畑景観等の維持・継承、世界文化遺産登録推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宇治茶の世界遺産登録を実現するための働きかけ(イコモスへのアピール) <ul style="list-style-type: none"> ・調査論文の提出、提案書のバージョンアップ ○重要文化的景観及び重要伝統的建造物群保存地区の国選定に向けた基準づくりの開始 <2町村(27実績:2町村)> <ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶のシンポジウム、文化講座等の開催<5回(27実績:5回)> ○登録された8市町村の日本遺産登録に加え、山城地域の残る4市町村の登録を推進<4市町村(20新規)> ○来年度の日本遺産サミットの開催に向け、日本遺産のPRを推進(地元イベントでの発信<60回(20新規)>、富裕層向け情報発信) ○日本遺産読本(マンガ)を活用した小学生対象の授業実施 ○東京国立博物館において情報発信(パネル展示、宇治茶伝道師による講演等) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶の世界遺産登録を実現するための働きかけ(イコモスへのアピール) <ul style="list-style-type: none"> ・調査論文の提出、提案書のバージョンアップ: <ul style="list-style-type: none"> →調査論文の提出:済(100%) →提案書のバージョンアップ:済(100%) ・重要文化的景観及び重要伝統的建造物群保存地区の国選定に向けた基準づくりの開始:2町村(100%) <ul style="list-style-type: none"> ①南山城村:景観行政団体へ移行 ②和東町:景観計画の地元説明会予定: ・宇治茶のシンポジウム、文化講座等の開催: <ul style="list-style-type: none"> 15回(300%) 宇治茶文化講座14回、 シンポジウム1回 ・日本遺産の地元イベントでのPR、情報発信 ・UJI-CHA FairでPR 67回(112%) ・山城の「たから」日本遺産ワークショップとして、小学生を対象に講座を開催(2回) ・東京国立博物館においてパネル展示、宇治茶伝道師による講演等開催(9月)
④	<p>(お茶の文化の普及・拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宇治茶ファンの拡大と消費拡大に向けターゲットを絞った取組、子ども達へのお茶育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「宇治茶ムリエ」を育成<新規1,000人 延べ2,000人(27実績:1,000人)> ・管内の企業等出張講座を開催 <開催回数30回(27実績:29回)> ・小学生を対象とした「キッズ茶ムリエ」検定を開催 <開催回数4回(27実績:4回)> ・「宇治茶ムリエ」認定者を対象に「King of 茶ムリエ」大会を開催<1回(20新規)>(再掲) 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶ムリエ育成:1,127人(113%) ・宇治茶ムリエ養成講座:37回(123%) ・キッズ茶ムリエ:5回(125%) ・King of 茶ムリエ大会:1回(100%)

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
<p>○宇治茶ブランドを確立し、茶道やハレの日のお茶としてPRするとともに、水出してん茶・玉露など新しい飲み方を提案し、日常的に使うお茶としての利用を拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間通じた宇治茶イベントへの参加者数 <30万人(㉗実績:13万人)> 「お茶の京都博(仮称)」に向け、「Uji-CHA Fair2016」を山城各地で開催 <60回(㉗実績:30回)>(再掲) 参加の利便性を高める「お茶所バス」の運行 <7日(㉗実績:5日)> 抹茶アート等、女性をターゲットにしたイベントを開催 <20回(㉘新規)> 首都圏ホテル等での新しい宇治茶の飲み方(水出してん茶等)を提案する消費拡大イベントを開催 <参加者30,000人(㉘新規)> 台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(㉘新規)>(再掲) 日本遺産魅力発信を兼ねたPRの実施(㉘新規)【企画】(ARガイドマップの作製・配布、4Kカメラを活用した映像作成・放映、情報誌掲載) 		<p>○ イベント参加者:522,118人(174%)</p> <ul style="list-style-type: none"> UJI-CHA Fair:67回(112%) お茶所バスの運行:5回運行(71%) <p>【未達成の要因・理由】観光入り込み客数が大きく伸びなかったため</p> <p>○ 女性ターゲットイベント:20回(100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏等イベント:約45,400人(151%) 台股ニッポン等での商談会:7回(70%) <p>【未達成の要因・理由】プロモーション活動が不十分であったため</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本遺産の情報誌掲載(2社)、ガイドマップ、4Kカメラ映像作成に向けて準備中
<p>○最高級宇治茶を理解できる層にターゲットを絞り、新しい飲み方やボトルティーなど新製品を戦略的に販売</p> <ul style="list-style-type: none"> SNSを活用した宇治茶ファンを確保 <1万人(㉗実績:3,981人)> フェイスブック(宇治Love)による宇治茶の魅力の発信 首都圏ホテル等での新しい宇治茶の飲み方(水出してん茶等)を提案する消費拡大イベントを開催 <参加者30,000人(㉘新規)>(再掲) 台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(㉘新規)>(再掲) 世界の茶産地との交流を推進するため、産地間交流マップ等を作成 <マップ等5,000部(㉘新規)> 輸出用宇治茶の生産拡大 <実証圃の設置3箇所、現地検討会3回(㉘新規)> <p>○各市町村ごとに都市間連携ができるよう国際交流を推進 <12市町村(㉘新規)></p>		<p>△ SNS「宇治茶LOVE」:4,700人(47%)</p> <p>【未達成の要因・理由】新規ファン獲得の手段が乏しかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏等イベント:約45,400人(151%) 台股ニッポン等での商談会:7回(70%) <p>【未達成の要因・理由】プロモーション活動が不十分であったため</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流マップ作成:5,500部(110%) 実証圃の設置3箇所、現地検討会3回(100%、100%) 国際交流の実施 7市町村(58%) (宇治市、城陽市、精華町、木津川市、和東町、笠置町、南山城村) <p>【未達成の要因・理由】市町の姉妹都市がお茶との関連性が低いところがあり、市町の予算確保ができなかったため</p>
<p>【交流エリアの創出、ネットワーク化】</p> <p>日本遺産認定を活用し各種拠点のネットワーク化を支えるソフト・ハードの基盤を整備し、地域資源の貨幣価値化(雇用創出や所得確保等)を実現します。</p> <p>(交流拠点を中心としたコアイベント開催準備)</p> <p>○戦略拠点等を活用し、民間プレーヤー中心とした組織によりプレイベントを実施するとともに、本イベントを企画(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇治茶まつりとコラボしたPR実施(宇治市) 復活する「秋花火大会」でのPR企画の実施(城陽市) クロスピア・ミニコンサートとのコラボ企画の実施(久御山町) 石清水八幡宮、松花堂庭園、四季彩館を活かした茶会の実施(八幡市) 町制60周年記念イベントとのコラボ企画実施(宇治田原町) ツアー・オブ・ジャパンと連動した企画、実施(京田辺市) まちづくりセンター椿坂における「玉水企画」の実施(井手町) 全国ご当地鍋フェスタでのプレイベント実施(笠置町) 茶源郷まつりにおける料理コンテストの実施(和東町) キヅガワゴン(リアカーゴ)を活用したプレイベント実施(木津川市) けいはんな公園での移動式販売車等を利用したイベント開催(精華町) 道の駅オーブンと連動した、プレイベントの企画、実施(南山城村) <p>⑤</p>		<p>○ 市町村ごとにプレイベントを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村イベントにおける、ロゴマーク提示や呈茶、チラシ配布、バナー提示等によるPR実施(11市町村:92%) (宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、井手町、宇治田原町、笠置町、和東町、精華町、南山城村)

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
<p>(ネットワーク化/戦略拠点の整備)</p> <p>○交流拠点等をつなぐ「宇治茶かおり回廊」を活用した広域回遊のシステムづくりなど既存施設や戦略拠点のネットワーク化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都やましろ茶いぐるライン」の整備 ・「ツアー・オブ・ジャパン・京都ステージ」のコースを茶いぐるラインに加え、案内標識の設置や路面案内マーキング、路面補修などを推進 ・案内標識の設置や路面案内マーキング、路面補修などを推進 ・京都八幡木津自転車道線(八幡市、京田辺市)のリニューアル着手 ・「宇治茶かおり回廊」の整備 ・国道163号、生駒井出線等に案内標識等を整備推進 ・駐輪ラックの整備 ・日本遺産魅力発信を兼ねた取組 <p>(ARガイドマップの作製・配布、情報誌掲載、案内板の設置)</p> <p>○お茶の京都エリア(関西本線(加茂以東)の公共交通網の整備に係る法定協議会の設置及び地域公共交通網形成計画の策定</p> <p>○「市町村景観整備支援事業」「府民公募型整備事業」及び「地域構想推進美観事業」を連動させ、「お茶の京都」の統一コンセプトに基づいた魅力ある景観形成を推進します。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観支援事業<府域全体で50カ所(㊸新規)> ・府民公募<府域全体で20カ所(㊸新規)> ・地域構想推進美観事業<府域全体で15施設以上 (㊸実績:9施設)> <p>○お茶の京都交流拠点を市町と連携して整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯屋谷地域駐車場整備(宇治田原町) ・「椿坂」井戸水活用整備(井手町) ・道の駅整備(南山城村) ・観光案内所整備(和東町) ・クロビア久御山(久御山町) ・駅舎整備(笠置町) 		<ul style="list-style-type: none"> ・「京都やましろ茶いぐるライン」の整備推進 事業推進中 ・「ツアー・オブ・ジャパン・京都ステージ」のコースを茶いぐるラインに加え、案内標識の設置や路面補修などを推進 ・案内標識の設置や路面補修などを推進 ・京都八幡木津自転車道線のリニューアル事業に着手 現況調査実施中(H28.9着手) ・「宇治茶かおり回廊」の整備 ・生駒井出線(京田辺市)等に案内標識等を整備推進 事業推進中 ・日本遺産の情報誌掲載(2社)、ガイドマップ、4Kカメラ映像作成に向けて準備中 ・JR関西本線(加茂以東地域)…笠置町、和東町、南山城村《B》9月に第1回協議会を開催 ・景観整備支援事業 <府域全体で26カ所実施(52%)> 【未達成の要因・理由】市町村からの申請が少なかったため ・府民公募型整備事業(もうひとつの京都枠) 24箇所(120%) ・地域構想推進美観事業:府域全体で10施設(67%) 【未達成の要因・理由】機会を捉えて周知を図ったが、実質的に今年度に初めて対象となった森・お茶エリアでの申請が伸びなかったため ・お茶の京都交流拠点を市町と連携して整備推進中 <ul style="list-style-type: none"> ・「椿坂」井戸水活用整備済(井手町)(100%) ・道の駅整備済(南山城村)(100%) ・観光案内所整備済(和東町)(100%) ・駅舎整備済(笠置町)(100%)
<p>【お茶産業のイノベーション創出】</p> <p>茶業研究所を核に、世界に通じる「宇治茶」の新たな価値を創出するとともに、お茶の機能性を引き出し新商品の開発や新たな産業展開を図ります。</p> <p>⑥ (茶業研究所機能強化・整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶業研究所が業界団体、企業・大学等と一体となって、宇治茶の将来、成長に向けた重要研究テーマを新たに策定 <3テーマ(㊸新規)> ・茶業研究所のリニューアルを実施(新製茶棟を整備) 		<ul style="list-style-type: none"> ・企業等に魅力ある研究テーマ:5テーマ(167%) ・非破壊測定による高品質茶生産技術、新てん茶乾燥機、ヴィンテージ茶、他 ・茶業研究所のリニューアルを実施(新製茶棟を整備):H29.6完成予定

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑦	<p>(お茶の新商品開発、販売単価向上・ブランド化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売単価の2%アップを目指します。 ＜荒茶生産額80億円突破、2,760円/kg(㉗実績:77億円、2,698円/kg)＞ 首都圏ホテルでの新しい宇治茶の飲み方(水出してん茶等)を提案 ＜30,000人(㉘新規)＞(再掲) 国際博覧会(台湾)において輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 ＜商談会等10回(㉘新規)＞(再掲) 世界の茶産地との交流を推進するため、産地間交流マップを作成 ＜マップ等5000部(㉘新規)＞ <p>(宇治茶のプレミアムブランド化)</p> <p>プレミアム宇治茶認証制度を創設するとともに、宇治茶をトップブランドとして確立するための海外市場分析や海外プロモーションを展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇治茶プレミアムブランド戦略策定(関係者との合意、コンテンツ調査) プレミアム宇治茶認証制度の試行品 <10個(㉘新規)> お茶の味表現チャートの試作検証 <20個(㉘新規)> 海外プロモーション・市場分析の実施 ロゴ・タグライン等広報ツールの策定 		<ul style="list-style-type: none"> 販売単価:2,787千円/kg(101%) 首都圏等イベント:約45,400人(151%) 台感ニッポン等での商談会:7回(70%) 【未達成の要因・理由】プロモーション活動が不十分であったため 交流マップ作成:5,500部(110%) <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇治茶プレミアムブランド戦略策定中 試行審査会開催:サンプル20個を試行認証(200%) お茶の味表現チャートガイドライン策定 チャートの試行 5事業者参加 11月にパリにて宇治茶プロモーションを実施(4企画)し、宇治茶アソシエーション発足 パリ市場調査実施 宇治茶ロゴマークを作成
	<p>(お茶の生産量拡大、品質向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産量を1%アップ <2,900t(30t増加)(㉗実績:2,869t)＞ 大規模集茶園における増収・品質向上<技術情報チラシ50部、現地濃密指導5回(㉗実績:技術情報ちらし50部、濃密指導5回)＞ 低温による減収回避(被覆の徹底)<技術情報チラシ800部、現地研修会10回(㉗実績:技術情報ちらし800部、現地研修会15回)＞ 担い手への茶園集積と機械作業に対応した生産性の高い茶園整備推進(宇治田原町湯屋谷地区)<沈砂池の工事完了、造成工事の発注設計書作成> 「宇治茶GAP」実践農家率の向上 <目標80%(㉗実績:76%)> 新設てん茶工場の整備を支援<2工場(㉘新規)> 台湾向け等輸出国別茶畑の確保<14ha(㉘新規)> 		<ul style="list-style-type: none"> お茶生産量:2,871t(99%) 大規模茶園チラシ 45部 濃密指導6回(90%) 技術情報チラシ800部 現地研修会10回(100%) 沈砂池工事済(100%) ○ H29年度造成工事の設計書作成済み 「宇治茶GAP」実践農家率 68%(85%) 【未達成の要因・理由】上位認証である初級を受けた工場の農家が実践誓約書を出さなかったため 輸出国別茶畑の確保:30ha(214%)
	<p>【宇治茶文化・魅力の効果的プロモーションと観光誘客】</p> <p>○「お茶の京都」の魅力観光資源として情報発信し、「お茶の京都」のブランドイメージの形成と、観光誘客を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶の京都地域全体の観光、地域資源情報を一元化的に集約・情報発信する仕組みの構築(再掲) 「関西茶業振興大会京都大会」<参画団体数:6団体(㉘新規)、来場者数:5万人(㉘新規)>(再掲) 観光事業者、出版社、交通事業者等と連携した特集記事掲載の共同企画<5企画(㉗実績:5企画)> 「お茶の京都観光ツアー」の実施:3企画(㉗実績:3企画)> 台湾において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(㉘新規)>(再掲) 世界の茶産地との交流を推進するため、産地間交流マップ等を作成 <マップ等5,000部(㉘新規)>(再掲) <p>○各市町村ごとに都市間連携ができるよう国際交流を推進 <12市町村(㉘新規)>(再掲)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 「関西茶業振興大会京都大会」 イベント参画団体数:10団体(166%) 来場者数:2.5万人(50%)(再掲) 【未達成の要因・理由】併せて開催する予定であった大学生とのイベントが中止となったため 観光事業者、出版社、交通事業者等と連携した特集記事掲載の共同企画<8企画>(160%)、ツアー<7企画>(233%) 台感ニッポン等での商談会:7回(70%) 【未達成の要因・理由】プロモーション活動が不十分であったため 交流マップ作成:5,500部(110%) 国際交流の取組を支援中<7市町村(58%)> 【未達成の要因・理由】市町の姉妹都市がお茶との関連性が低いところがあり、市町の予算確保ができなかったため <p>○</p>
	<p>○スポーツ観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ツアー・オブ・ジャパン京都ステージを開催し、スポーツを通じた地域の交流を促進 ＜観客数 30,000人(㉘新規)＞ 和東町でのマウンテンバイクの日本自転車競技連盟(JCF)認定コース化による全国大会開催支援 		<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ◎ ツアー・オブ・ジャパン 京都ステージを開催(5月、観客数5万人)(167%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
3	<p>～もうひとつの京都プロジェクト～【海の京都】 府・7市町・観光事業者の強固な連携組織「海の京都・DMO」を設立し、「海の京都」のセカンドステージとして、観光地経営の視点に立った観光地域づくりを進めます。</p>		
	<p>【全体マネジメント】 府、市町、観光協会の強固な連携組織である「海の京都・DMO(仮称)」を6月に設立します。 DMOは、「観光地経営」の視点に基づき、統計・データ等に基づくマーケティング、CS(顧客満足)の管理、毎年度のPDC A等を行いつつ、プロモーション、人材育成・確保、着地型商品流通等を総合実施することで、観光圏全体でのサービス水準・CSの向上を実現するとともに、2次交通等地域公共交通等の改善等にも取り組むことで、集客・利益の偏在等の地域格差を是正し、観光圏のブランド化、観光地域づくりを推進します。 <観光入込客数 過去最高1,100万人以上(㉔実績:909万人)> <観光消費額 3,300円/人(㉔実績:2,465円/人)> <外国人宿泊者数 37,000人(㉔実績:29,569人)></p> <p>① ○観光客の属性・動態調査等を実施し、各種観光施策を効果的に推進 ○広域着地型商品、着地型商品、体験プログラムなど売れる旅行商品を造成 ○着地型商品、宿泊予約、特産品などの海の京都の販売サイトの構築 ○DMOの2種旅行業免許取得等により、各地域本部の旅行商品販売体制を構築 <旅行業販売事務所7カ所(㉔実績:3協会)> ○顧客満足度調査によるブランド化の推進 ○丹後食の王国、農林、商工との連携による特産品開発・掘起し ○インバウンド対策の推進 ○全国、海外に向けた積極的な情報発信 ○民主導の取組について、積極的な働きかけを行い、民間投資を促進 <民主導の新規取組 250事業(㉔実績 209事業)></p>	○	<p>・観光入込客数<9,995,760人(91%)> ・観光消費額<2,427円/円(74%)> 【未達成の要因・理由】縦貫自動車道の全線開通による利便性向上により日帰り客が増加したため ・外国人宿泊者数<35,262人(95%)> ・観光客の属性・動態調査等の実施<実施済> ・売れる旅行商品の造成<地域資源を活かした旅行商品造成済> ・特産品などの販売サイトの構築<完成> ・DMO旅行業取得<取得済> ・販売事務所<4カ所(57.1%)> 【未達成の要因・理由】全観光協会を対象とした目標設定であったが、28年度内に全観光協会の統合が完了しなかったため ・顧客満足度調査<実施済> ・高品質の特産品等の掘り起こし・開発 ・インバウンドを含めた観光戦略<策定済> ・台湾をはじめとする国内外へのプロモーションを展開 ・民主導の新規取組<164事業(66%)> 【未達成の要因・理由】25年度から民主導の取組が加速しており、既に27年度までに相当数の投資があったため</p>
	<p>達成手段 (数値目標)</p> <p>【観光振興戦略拠点の整備と拠点間のネットワーク強化】 ○「海の京都」戦略拠点及び戦略拠点間の施設整備を推進 ・[久美浜エリア]久美浜湊宮浦明線(久美浜町)の2車線改良の事業推進 ・[伊根浦エリア]伊根港線景観舗装等整備推進(地域主導) ○「海の京都」周遊ルートの整備を推進 ・国道178号(上野平バイパス)事業推進、国道178号(袖志)・浜丹後線(宮バイパス)事業推進など「丹後半島一周京都の新海遊ルート」の整備推進 ② ○京都丹後鉄道の魅力アップ等利用促進の取組を推進 ・特急車両のデザイン改修による魅力向上 ・京都丹後鉄道駅におけるまちづくりと一体となった駅周辺のにぎわいづくりや交通結節機能の強化を図り利便性向上を図る駅再生プロジェクトの推進 ・丹後由良駅、久美浜駅の駅再生に着手 ・運行会社とも連携した利用促進策の推進 <京都丹後鉄道利用者人数 200万人(㉔実績 184万人)></p>	○	<p>・[久美浜エリア]久美浜湊宮浦明線(久美浜町)整備完了 ・[伊根浦エリア]整備推進中 ・「海の京都」周遊ルート 対象全3ヶ所で事業推進中 特急車両「丹後の海」13編成目、4編成目を整備し、原則、毎日「丹後の海」がJR京都駅へ乗入可能な体制となる。 ・丹後由良駅、久美浜駅において住民参画の上、駅再生計画を策定。駅舎ライトアップ、駅前広場整備、トイレ整備、路線バスの新設などを実施 ・運行会社と沿線自治体が連携し、沿線住民などの利用を促すスタンプラリーや冬期の特急利用を促進するキャンペーンを実施<利用人数180.6万人(90.3%)></p>

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
<p>○国際ランドブリッジ形成のため、京都舞鶴港の日本海側拠点港計画を実現し、「物流」の港から「人流・物流」の総合ゲートウェイ化を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際埠頭岸壁70メートル延伸、ふ頭用地の造成、多目的クレーンを整備 第2ふ頭での直行航路の国際フェリー就航に向けた施設整備 多言語表記の観光案内板等、外国人観光客のための施設整備 <p>○山陰近畿自動車道の道路整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 与謝天橋立IC～京丹後大宮IC間の平成28年内の供用 大宮峰山道路の直轄権限代行事業の促進支援 峰山～網野間の事業化要望 <p>○「市町村景観整備支援事業」「府民公募型整備事業」及び「地域構想推進美観事業」を連動させ、「海の京都」の統一コンセプトに基づいた魅力ある景観形成を推進します。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観整備支援事業 <府域全体で50カ所(28新規)> 府民公募 <府域全体で20カ所(28新規)> 地域構想推進美観事業 <府域全体で15施設以上 (27実績:9施設)> <p>○観光交通の実証実験等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 久美浜湾内の遊覧船 ぐる丹バス(夕日が浦からの逆コース) <2便(28新規)> 橋立～宮津浜町 高速バスの自動案内装置整備 <p>○DMO、公共交通事業者が連携し企画切符等を販売</p>		<p>(国際海上コンテナ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際ふ頭での物流機能強化 橋梁下部工(仮設土留工)実施中 (国際フェリー、RORO船) 就航状況を踏まえた施設整備内容の検討中 (外航クルーズ) 多言語表記の観光案内板レイアウト作成 野田川大宮道路(与謝天橋立～丹後大宮間) 供用(H28.10) 大宮峰山道路 地元説明会実施、現地測量実施 大宮峯山ICアクセス道路 概略ルート案作成済 峰山～網野間の事業化要望 春の政策提案、秋の政府要望にて要望 <p>・景観整備支援事業<府域全体で26カ所(52%)></p> <p>【未達成の要因・理由】市町村からの申請が少なかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> 府民公募<府域全体で24カ所(120%)> 地域構想推進美観事業<府域全体で10施設(67%)> <p>【未達成の要因・理由】機会を捉えて周知を図ったが、実質的に今年度初めて対象となった森・お茶エリアでの申請が伸びなかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> 久美浜遊覧船・ぐる丹バス、橋立～宮津浜町遊覧船、高速バスの自動案内装置整備 実施済 (P)DMO、公共交通事業者が連携した企画切符等の販売
<p>【ブランド化の推進】</p> <p>○広域着地型商品、着地型商品、体験プログラムなど売れる旅行商品を造成(28新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> <商品造成数 350ツアー(50×7市町)(28新規)> 新たな旅行商品となる医療ツーリズム、ユニバーサル観光の推進 お金の取れる観光ガイドの育成 <育成ガイド数 21名(28新規)> 地域版通訳案内士の候補者の掘起し・育成 <育成数 10名(28新規)> <p>○顧客満足度調査によるブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連施設の顧客満足度調査の実施 <200カ所(28新規)> 観光関連施設(宿泊施設、飲食店、土産物販売店等)の推奨制度の導入 <p>○丹後半島ブランド価値発掘・発信事業(28新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな体験プログラム、広域周遊交通プラン等の積極的広報による誘客 <参加者数 15,000人(28新規)> まちづくり団体、観光協会と連携した体験プログラムの動画配信 <10メニュー(28新規)> 中京圏・京阪神の旅行会社へのファミトリップ・商談会の実施 <旅行会社10社(28新規)> 大学や観光関連専門学校によるバーチャル旅行会社による魅力発掘・発信 <参画学校数 2校 参画学生数 40人(28新規)> 	○	<ul style="list-style-type: none"> 旅行商品の開発(250ツアー)・コンテンツ調査済 健康ツーリズム等について事業者と実施済 地域の魅力を語るツアーガイド等を育成<研修会参加:70名(333%)> 通訳案内士育成<0名(0%)> <p>【未達成の要因・理由】北部地域において外国語を話せる人材の確保ができなかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客満足度調査を実施済 7カ所(4%) <p>【未達成の要因・理由】当初予定していた施設ごとの調査ではなく、地域単位での満足度調査を実施したため</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光品質認証制度の導入可能性を調査 積極的広報による誘客<参加者数15,278人(101.9%)> 体験プログラム動画配信<10メニュー(100%)> 7月～「ASOBO-TANGO2016」として発信 ファミトリップ・商談会の実施<旅行会社19社、メディア2社(210%)> バーチャル旅行会社による魅力発掘・発信<参画学校数2校(100%)、参画学生数44人(110%)>

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>○「海の京都」の歴史の拠点づくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大陸の玄関口である丹後から日本国内に伝播した歴史・文化の情報発信拠点施設としての「丹後歴史文化博物館(仮称)」の基本計画策定 ・海の京都特設展示「生誕300年 与謝蕪村展」の開催 <1,000人(㉔新規)> ・丹後の歴史的魅力を紹介する特別展・企画展の開催 <4企画展等(㉔新規)> ・地元と協働した文化体験事業の企画立案の検討及び試行 <試行事業の実施 2回(㉔新規)> <p>○山陰海岸ジオパークの魅力を国内外に発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊観光を促進するための市場調査や、多言語で情報発信するアプリ開発を実施 ・今年度開通予定の京丹後大宮IC等から効果的にPR案内誘導する道路案内標識を設置し、旅行者にジオパークを普及<サイン5基(㉔新規)> 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹後歴史文化博物館(仮称)」について、地元意見聴取会議を3回、有識者等による基本計画策定検討会議を1回実施し、基本計画(案)を作成 ・海の京都特設展示の開催<1,737人(174%)> ・特別展・企画展の開催<5回(125%)> ・文化体験事業試行事業の実施<3回(150%)> ・レンタカー付き旅行商品の造成や広域周遊観光のための市場調査を実施 ・多言語で情報発信するアプリ開発を実施 ・道路標識を設置<5基(100%)>
	<p>【「海の京都2016」を開催し、「海の京都」の魅力を全国に発信】</p> <p>平成27年度は、海の京都博を実施、成功させることができ、その流れを引き継ぐために「海の京都2016」を開催して、継続的地域意識の醸成を向上させ、魅力を発信する。</p> <p>④ ○海の京都後祭事業を実施(ウォータープロジェクトショー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○TANTANロングライド、SEA TO SUMMITで「海の京都」を全国からの参加者にPR ・TANTANロングライド参加者数 <1,600人(㉗実績:1,553人)> ・SEA TO SUMMIT開催等によるアウトドアスポーツ愛好者の誘客 <参加者数:3,200人(㉗実績:3,077人)> ・JAPAN ECO TRACKによるアウトドアスポーツフィールドの魅力を全国へ発信 <記事掲載等:5件(㉔新規)> ・民間団体によるサイクリング、登山等のイベント開催支援 <イベント参加者数:450人(㉔新規)> 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・海の京都後祭事業(ウォータープロジェクトショー)の実施<開催済(7/8-9)> ・TANTANロングライド参加者数<1,527人(95%)> ・SEA TO SUMMIT参加者数<4,060人(127%)> ・記事掲載等<6件(120%)> ・民間団体によるイベント参加者数<489人(109%)>
	<p>【「食」の拠点づくり等】</p> <p>DMOと連携し、丹後地域の「食」の魅力発信により、「海の京都」観光の拠点化を推進するとともに、丹後王国「食のみやこ」における10次産業化を推進します。</p> <p>⑤ ○丹後王国「食のみやこ」の入園者数 <60万人(㉗実績:52.6万人(3月13日時点))></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践学生や地元農家・グループ等の料理開発や加工研修による人材育成 <100人(㉗実績:90人)> ○地域の将来を担う高校生等による「高校生レストラン」への参画高校数 <7校(㉗実績:7校)> ○丹後王国「食のみやこ」における新たな商品等の開発件数 <7件(㉗実績:7件)> ○地域の農林水産物を活かした加工品の開発 <試作品支援 5品(㉗実績:5品)> ○丹後地域の魅力ある「食」を安心・安全かつ高品質で提供するため、ブランド水産物の生産拡大を推進 ・「丹後とり貝」「丹後ぐじ」「育成岩がき」の販売総額(中丹地域を含む) <235百万円(㉗実績:234百万円)> ・高鮮度サワラの出荷量の拡大 <5トン(㉔新規)> 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後王国「食のみやこ」の入園者数<47.4万人(79%)> <p>【未達成の要因・理由】秋の天候不順による減、降雪によりイベントが中止になったことによる減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理開発や加工研修による人材育成<102人(102%)> ・「高校生レストラン」への参画高校数<7校(100%)> ・丹後王国「食のみやこ」における新たな商品等の開発件数 <7件(100%)> ・地域の農林水産物を活かした加工品の開発<5品(100%)> ・「丹後とり貝」「丹後ぐじ」「育成岩がき」の販売総額<215百万円(91.5%)> ・高鮮度サワラの出荷量の拡大<39.7トン(794%)>

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>○関係団体や事業者と連携した食の魅力づくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後グルメフェスティバル、道1グランプリのジョイント開催 <来場者数 50,000人(㉔新規)> ・丹後道の駅スタンプラリーの開催(夏季) ・丹後王国を核とした道の駅直売所等の魅力向上や販売促進 顧客ニーズの把握や魅力ある商品づくりのための講習会の開催 専門家による個別経営診断やコンサルティング <6事業者(㉔新規)> ・丹後の地酒魅力発信 酒蔵と酒米生産者との交流会の開催 <2回(㉔新規)> 都市部の飲食店や量販店において地酒の販促活動を展開 <1回(㉔新規)> <p>○「丹後うまいもんフェア」等の開催 <開催回数 10回(㉗実績:10回)></p> <p>○大型量販店での丹後製品の常設コーナーの設置</p> <p>○DMOによるICTを活用した特産品等販売強化</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・丹後グルメフェスティバル、道1グランプリのジョイント開催 <33,650人(66%)> 【未達成の要因・理由】台風接近により来園者が減少したため ・丹後道の駅スタンプラリーの開催<開催済> ・丹後王国を核とした道の駅直売所等の魅力向上や販売促進講習会の開催<開催済> ・専門家による個別経営診断やコンサルティング<3事業者(50%)> 【未達成の要因・理由】診断内容不評により、派遣要望が減少したため ・丹後の地酒魅力発信 酒蔵と酒米生産者との交流会開催<2回(100%)> 地酒の販促活動の展開<1回(100%)> ・「丹後うまいもんフェア」等の開催<10回(100%)> ・大型量販店での丹後製品の常設コーナーの設置<常設コーナー設置やネットショップでの取扱実施済> ・DMOによるICTを活用した特産品等販売強化<特産品ブランド化事業として実施検討中>
⑥	<p>【インバウンド対策の推進】</p> <p>DMOと連携し、増加する外国人観光客を「もうひとつの京都」に誘客し、インバウンドによる地域創生を進めます。</p> <p>○インバウンド戦略の策定</p> <p>○外国人観光客の受入環境の整備(食事メニューの多言語化支援、観光マップの多言語化、観光案内所の多言語対応能力の推進等)</p> <p>○外国人向けのコンテンツ開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富裕層向けのコンテンツ開発 ・伝統工芸体験プログラム等造成による外国人乗客の地域周遊促進 <プログラム造数数:延10コース(㉔新規)> ・Wi-Fiや多言語翻訳システムの導入、免税店支援等、地域での多言語受入環境を整備します。 <Japan_Free_Wi-FiKyoto 800件(㉗実績:670件)> (もうひとつの京都共通) ・地域の外国人観光客受入機運を醸成するため、おもてなし研修を実施します。 <6回(㉗実績:1回20人)> (もうひとつの京都共通) <p>○台湾プロモーションの実施</p> <p>○クルーズ客船の誘致に取り組み、京都舞鶴港の機能を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓露国際フェリーを利用した出入国者の数 <5,000人(㉗実績:約440人)> ・クルーズ客船寄港決定数 <18寄港(㉗実績:17寄港(うち2は宮津港寄港))> ・クルーズ船乗客数 <24,000人(㉗実績:約9,600人(宮津港・伊根港寄港を含む))> ・地元の多彩なパフォーマーによるクルーズ客船おもてなし行事の実施 <実施回数15回(㉗実績:8回)> 		<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド戦略<策定済> ・外国人観光客の受入環境の整備<カード決済、免税店、Wi-Fi整備、研修会等実施済> ・富裕層向けのコンテンツ開発<視察済> ・伝統工芸体験プログラム等造成数<10コース(100%)> ・地域での多言語受入環境の整備<Japan_Free_Wi-FiKyoto 1,267件(158%)> ・おもてなし研修の実施<6回(100%)> 【未達成の要因・理由】 ・台湾プロモーション<実施済> ・クルーズ客船の誘致、京都舞鶴港の機能強化 ・日韓露国際フェリー利用出入国者数<56名(1%)> 【未達成の要因・理由】航路獲得に必要な貨物量確保の見通しが立たなかったため ・クルーズ客船寄港決定数<41寄港(228%)> ・クルーズ船乗客数<約24,400人(93%)> ・クルーズ客船おもてなし行事<実施回数14回(93%)>
⑦	<p>【観光情報の発信力強化】</p> <p>DMOを核に、各市町連携した観光プロモーションを首都圏・京阪神圏・中京圏等に向け積極的に展開します。</p> <p>○プロモーション戦略の策定</p> <p>○京阪神や中京圏をはじめ地域内外のイベント等で「海・森の京都」の情報発信 <情報発信回数:20回以上(㉗実績:17回)></p> <p>○有名書籍とタイアップした海の京都ガイドブックの作成</p> <p>○首都圏での旅行博出展</p> <p>○旅行会社を対象としたファムトリップの実施</p> <p>○京都府・市町・観光協会等間の情報共有イントラの構築及び地域資源のDB化</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「海の京都」観光地域づくり戦略 策定済(H29.3) ・イベント等での「海・森の京都」の情報発信回数<22回(110%)> ・海の京都ガイドブック作成<ことりっぶ完成> ・ツーリズムエキスポ等への出展 ・旅行会社を対象としたファムトリップの実施→教育旅行誘致実施 ・府・市町・観光協会等の情報共有体制の構築済<メーリングリストの作成>

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>【府北部地域連携都市圏の形成】 「京都府北部地域連携都市圏」の形成に向け、地域内連携による都市機能の向上と、生活機能の集約・交通網の充実等による交流人口の更なる拡大と労働生産性向上を通じた所得水準の向上を図り、定住促進を進めます。</p> <p>⑧ ・全観光協会の海の京都DMOへの統合参画による北部連携の具体化 ・新設した専任事務局をサポートし、北部地域連携都市圏ビジョンの策定、北部連携に向けた具体的な連携事業の実施を支援 <広域連携事業 3事業(・海の京都DMO地域活性化推進事業 ・移住・定住プロジェクト ・合同企業面接会)(㉔新規)></p>	○	<p>・7市町の観光協会が海の京都DMOへ順次統合参加中 ・首長会議や幹事会などを開催し連携都市圏ビジョンを策定。また、地方創生交付金などを活用して、6月に合同企業面接会を開催したほか、海の京都DMOの設置、地域統一的な観光戦略の立案・実行、地域ブランディングや共通の空き家バンクの創設などを実施</p>
4	<p>「和食」の聖地化、及び「天橋立」「宇治茶」の早期世界遺産登録や「天橋立」の日本遺産登録をめざします。</p>		
達成手段 (数値目標)	<p>① ○「和食」の聖地をめざし、オール京都の推進体制である「京都・和食文化推進会議」を運営し、顕彰事業等をはじめ京都ならではの取組を実施します。 ・参加団体 <340団体・個人(㉗実績:268団体・個人)> ・「和食文化京都大賞」及び「京都和食文化賞」による顕彰</p> <p>○和食文化の保護・継承を図るため、府立大学における平成31年4月を目指した和食文化学科(仮称)開設準備及び学問体系の構築に係る調査・研究等に対して支援します。 ・学問体系の構築等に係る調査・研究(平成27年度に引き続き専門家会議を開催)<4回(㉗実績:3回)> ・学科開設に向けた、学部の枠組みを超えた学際的な教育プログラムの提供 (「和食の文化と科学」プログラムの継続実施、新たに「食文化原論」、「和食文化論」等の科目を開講) ・高等教育機関の設置認可申請の準備(設置計画の検討、文部科学省への事前協議) ・「和食文化の大学コンソーシアム(仮称)」設立に向けた、関連大学・研究者・民間企業等との準備協議</p> <p>○「天橋立」「宇治茶」の世界遺産登録に向けて、「暫定リスト」拡大を国に働きかけます。 ○市町村と連携し、天橋立はじめ「日本遺産登録」に向けて国に働きかけます。</p>	○	<p>・「京都・和食文化推進会議」参加団体<269団体>(79%) 【未達成の要因・理由】顕彰事業等の広報の方法を見直したことで新聞にも大きく取り上げられるなど会議の取組等に係る周知に一定の効果が上がったが、個別の働きかけ等にまで取り組むことができなかったため ・顕彰制度に基づく顕彰事業の実施 →3/29表彰式開催</p> <p>・学問体系の構築に向けた本格的研究を実施(人類学、歴史学、日本食文化史学の各領域)(会議の開催 0回(0%)) 【未達成の要因・理由】専門家会議に代え専門家会議全委員と個別に教育課程等に関する調整を行ったため ・「和食の文化と科学プログラム」開講科目(全29科目)を文化系に重点化して実施 ・高等教育機関の設置認可申請に向けて設置計画の検討や文部科学省(2回)、設置審現任委員(3回)、文化庁(1回)への相談を実施 ・平成29年2/28、3/1に和食文化の大学コンソーシアム準備会発足記念キックオフ・シンポジウムを開催(来場者310人) ・「天橋立」平成28年度調査研究委託完了 ・「宇治茶」調査論文の提出:提出済(11月) ・平成29年4月丹後ちりめん回廊日本遺産登録</p>

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
5 城陽市東部丘陵地の広域的な視点からの地域づくりを推進します。			
達成手段 (数値目標)	<p>① ○城陽市東部丘陵地において、新名神高速道路などの広域交通インフラの整備インパクトを最大限活用できるよう、長池・青谷の先行整備地区への高次な商業機能や国際的な物流機能の導入をめざすとともに、中間エリアにおける段階的な土地利用を進めます。</p> <p>○このため、官民一体の体制による「城陽市東部丘陵地整備推進協議会(仮称)」の設立を支援し、道路ネットワーク等の整備に係る情報共有や意見交換を行うとともに、企業等の誘致を促進します。</p> <p>○さらに、城陽市が制定した「城陽市東部丘陵地まちづくり条例」に基づく「城陽市東部丘陵地整備委員会(仮称)」の設立を支援するなどにより、当該地域の無秩序な土地利用を防止し、将来にわたり計画的な土地利用が図れるよう関係機関への指導・調整を進めます。</p> <p>○また、先行整備地区の事業化に向け、事業組合の設立等の手続きが進むよう、諸課題に係る関係機関の調整を行います。</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・長池、青谷両先行整備地区の市街化区域編入 ・東部丘陵地整備推進協議会設立 ・長池、青谷両先行整備地区で準備組合設立 ・東部丘陵地整備計画関連道路の都市計画決定
6 「みやこ構想」について、セカンドステージの実現に向けた取組を進めます。			
達成手段 (数値目標)	<p>① ○「海」「森」「お茶」等のもうひとつの京都プロジェクトと連携しながら、みやこ構想のセカンドステージの着実な推進のため実効あるマネジメントを行います。</p> <p>【丹後・食の王国構想】</p> <p>○「丹後王国」を核として、丹後食材を使ったオリジナル特産品開発(6次産業)や「食」に関わる人材育成を行う10次産業化を推進するとともに、観光拠点「道の駅」として地域の活性化を促進します。</p> <p><丹後王国利用者数:60万人(㉗実績:52.6万人(3月13日時点))></p> <p><丹後地域の道の駅利用者数:160万人(㉘新規)></p> <p><「食」に係わる人材育成:100人(㉗実績:90人)></p> <p><丹後道の駅ネットワーク(仮称)、丹後農林漁家民宿ネットワーク(仮称)の設置></p> <p>・府民とともに、簡易魚道の設置やくみ上げ等の天然遡上鮎を増やす取組を支援</p> <p><協働活動の実施:4地区(㉘新規)></p> <p>・カワウ被害減少に向けた効果的な取組の実施に向けた計画を策定</p> <p><関係者の役割を明確にする計画を策定></p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後王国「食のみやこ」利用者数:47.4万人(79%) 【未達成の要因・理由】 ・イベント日の悪天候やリニューアル効果の減退等で利用者数が伸びなかったため ・丹後地域の道の駅利用者数: 年度末に集計(29年6月頃判明見込) ・食に関わる人材育成:102人(102%) ① 丹後道の駅協議会:H28.6設置済(100%) ② 京都丹後いなかツーリズム推進協議会: H29.3.27設置済(100%) ・協働活動の実施地区:4地区(100%) (鴨川ほか、由良川、上林川、和知川) ・3月29日開催の京都府カワウ対策協議会を経て策定済み(100%)

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
<p>【日本海観光構想】 ○「海の京都博後祭」(ウォータープロジェクションショー)を開催し昨年の「海の京都博」の盛り上がりを引き継ぐとともに、「海の京都」のセカンドステージとして、官民一体となったDMO組織を確立して、平成32年度に「ブランド観光地域」の認定を受けることを目指します。 ・地域の総力を結集して、観光まちづくりを効果的かつ強力に推進するため、観光・交流・集客等に関する事業を一元的・総合的に行う事業主体として、DMO組織「海の京都振興会社(仮称)」を設立 ・各市町において「海の京都」の統一コンセプトに基づき、魅力ある景観形成を支援 ＜府域全体で15施設以上(27実績:9施設)＞ ・ジオパーク観光をはじめ、観光地域づくりマネージャーと連携した滞在型ツアーの実施 ＜40ツアー(27実績:31ツアー)＞ ・TANTANロングライド参加者数:1,600人 (27実績1,553人)＞</p> <p>【京都舞鶴港ランドブリッジ構想】 ○京都舞鶴港を京都府の物流ネットワークの拠点とし、関西経済圏における日本海側ゲートウェイとしての役割をさらに発揮するため、対岸諸国との定期航路を拡充するとともに、クルーズ客船の誘致に取り組み、京都舞鶴港の機能を強化します。 ・コンテナ取扱量 <10,000TEU (27実績:8,620TEU)＞ ・貿易取扱量 <1,187万t (27実績:1,103万t)＞ ・定期航路数 <5航路 (27実績:4航路)＞ ・日韓露国際フェリーを利用した出入国者の数 <5,000人(27実績:約440人)＞ ・クルーズ客船の寄港決定数 <18寄港 (27実績:17寄港(うち2は宮津港寄港))＞ ・クルーズ船乗客数 <24,000人(27実績:約9,600人(宮津港・伊根湾寄港を含む))＞</p> <p>【北京都ものづくり拠点構想】 ○「北部産業技術支援センター・綾部」のリニューアル計画素案を中心に、北部リサーチパーク構想を推進します。 ○丹後・知恵のものづくりパークセカンドステージへ向けて、新たな事業スキームを構築します。</p> <p>【由良川里山回廊構想】 ○由良川沿いに広がる優れた里山資源を活かし、里山を巡る回廊の整備を進めるとともに、訪れる人々が里山の生活文化を体感できるようにします。 ・森林づくり活動への参加など、地域や団体等への働きかけ強化によりモデルフォレスト運動を推進します ＜MF運動への参加者数 1,000人(27実績:872人)＞ ・京都丹波ジビエのブランド化を図るため、「京都丹波ジビエ認証制度」の創設 ・中丹地域及び大消費地(京阪神、首都圏)でメニュー開発や試食会等の支援を行い、京都丹波ジビエフェア参加店を確保 ＜参加店:50店(27実績:41店)＞ ・SEA TO SUMMIT開催等によるアウトドアスポーツ愛好者の誘客 <参加者数:3,200人(27実績:3,077人)＞ ・「命の里」事業による農村再生活動や中丹ふるさと再生推進事業等の取り組みを通じ、集落リーダーの育成や集落の維持、再生・自立、発展に向けた支援 <支援集落数:81集落(27実績:80集落)＞ ・都市住民との交流につながる農家民宿の開設を推進 ＜府の支援による農家民宿の開設数(累計):33軒(新規6軒)(27実績:累計27軒、新規5軒)＞</p>	<p>△</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>・景観形成支援 10件(67%) 【未達成の要因・理由】 機会を捉えて周知を図ったが、実質的に今年度初めて対象となった森・お茶エリアでの申請が伸びなかったため。 ・TANTAN参加者数 1527名(95%)</p> <p>・コンテナ取扱量 11,493TEU(115%) ・貿易取扱量 1,083万トン(91%) ・定期航路数 4航路(80%) 【未達成の要因・理由】 航路獲得に必要な貨物量確保の見通しが立たなかったため。 ・出入国者の数 56人(1%) 【未達成の要因・理由】 国際フェリーの直航化が実現しなかったため。 ・クルーズ客船の寄港決定数 41回(228%) ・クルーズ船乗客数 22,400人(93%)</p> <p>・北部リサーチパーク構想 関係機関4者で合意した「北部産業創造センター(仮称)」の整備計画概要を11月に共同発表 (京都府・綾部市・グンゼ・京都工芸繊維大学) ・丹後・知恵のものづくりパーク パーク入居企業のニーズ調査実施 入居継続の意向を確認するとともに、新たな機能として高度設計人材の育成支援等の要望を聴取</p> <p>・MF運動への参加者数:1,201人(120%) ・食肉処理施設認証制度構築 ・京都丹波ジビエフェア参加店数:78店(156%) ・SEA TO SUMMIT等 参加者数:4,060人(127%) ・「命の里」事業 支援集落数:79集落(98%) ・農家民宿の開設数:累計31軒(新規4軒)(94%)</p>

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	<p>【京都丹波「食と森の交流の都」構想】 ○森の京都博(国定公園指定、全国育樹祭等)を契機として、京都市内から1時間以内で本格的な農業農村体験が出来る強みを活かし、「一般社団法人 京都丹波・食と森の交流協議会」を中心に、小中学生の教育体験旅行など着地型・体験型旅行の受入体制整備・拡大を図り、森の京都振興会社(仮称)DMOによる観光地域づくりにつなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育体験旅行の受入 <60団体 3,000人[うち農家宿泊 3市町村700人] (㉑実績:47団体 2,501人[うち農家宿泊 3市町村556人])> ・H29から新たに受入が始まる修学旅行への対応など、受入体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊を受け入れられる農家の拡大 <累計170戸(㉑実績:143戸)> ・(一社)食森協議会と連携した学校や旅行代理店等への誘致活動の展開 <20件(㉑新規)> ・インバウンドの教育体験旅行拡大に向けた「森の京都インバウンド教育体験旅行受入マニュアル」の策定 ・農業農村体験をセットにした着地型宿泊プランを提供する公的宿泊施設や温泉旅館、農家民宿等の施設数 <新規3施設(㉑新規)> ・アグリスポーツの開催 <3回(㉑実績 5回)> ・内水面漁業の役割など理解を深め、水辺や川魚など森と水の恵みに親しむ機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・内水面漁協と連携した釣り教室等の開催 <2回(㉑実績:1回)> ・農林漁家民宿の開業支援 <5軒(累計:23軒)(㉑実績:6軒(累計18軒))> <p>【新京都伝統工芸ビレッジ構想】【再掲】 ○新光悦村に整備した移動式の職人工房を活用し、若手職人の販売や交流機会をつくるなどの支援を行うとともに、工芸関係者の新光悦村への誘致を進めます。 <森の京都博in新光悦村等の来場者数:1,000人(㉑新規)> <新規企業立地(新光悦村):2件></p> <p>【北山文化環境ゾーン構想】 ○新資料館や植物園、府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を外内に発信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物園入園者数 <90万人(㉑実績:88.3万人)> ・陶板名画の庭入園者数 <7万人(㉑実績:6.2万人)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育体験旅行の受入 53団体 3,259人見込[うち農家宿泊 3市町786人](88%、109%)[100%、112%] 【未達成の要因・理由】 受け入れ人数の拡大に注力し、実質的な目標である受け入れ人数は目標を上回る結果となった。 ・H29から新たに受入が始まる修学旅行への対応など、受入体制の強化 宿泊を受け入れられる農家の拡大 累計173戸(101.7%) 旅行代理店等への誘致活動 5回(40%) 【未達成の要因・理由】 旅行代理店等へは「森の京都教育体験旅行便り」の月1回の定期的な配信により、森の京都における教育旅行の魅力について情報提供するとともに、ファミトリップ(誘客促進のため、旅行会社を招へいた現地視察ツアー)を実施するなど、別の形で効果的・継続的な誘致活動を実施したため。 ・マニュアル策定 ・農業農村体験とセットにした宿泊提供 2施設(67%) 【未達成の要因・理由】 農家民宿等に対し、定見プランの導入を提案したが、旅行商品としての販売までには至らなかった。 ・アグリスポーツ 2回(67%) 【未達成の要因・理由】 地元のイベントと同時開催を予定していたが、雨天によりイベントが中止され、再設定の調整も整わなかったため ・内水面漁協と連携した釣り教室等の開催について検討、協議実施 【未達成の要因・理由】 関係機関との調整が整わなかったため ・農林漁家民宿開業支援7軒(合同調査実施3軒、事前相談4軒)(140%) ※合同調査＝関係行政機関(建築、保健所、消防等)が合同(ワンストップ)実施 ・来場者数 600人(60%) 【未達成の要因・理由】 悪天候での開催であったため。 △・新光悦村 0件(0%) 【未達成の要因・理由】 有望案件は複数件あったが、企業の事業計画検討に時間を要するため年度内には契約に至らず、年度を越えた現在も交渉中であるため。 ○・植物園入園者数 840,176人(93%) ・陶板名画の庭入園者数 67,555人(97%)

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
<p>【京都クロスメディアパーク構想】 ○太秦エリアを中心とした京都クロスメディアパークの整備推進のため、「京都クロスメディアパーク推進会議(仮称)」を創設し、映像を核とした産業の育成と府内への波及・展開を図ります。 ・国内外との連携強化による映画・映像産業振興の拡充 <企業とクリエイター等のマッチングサイトの構築・運営 マッチング数:5件(㉔新規)> <コンテンツ関連企業・事業への支援数:100件(㉗実績168件)> <若手クリエイター育成者数:85人(㉗実績81人)></p> <p>【知恵産業首都構想】 ○「京都産業育成コンソーシアム」のもと、「京都知恵産業支援共同事業」を府市協働で進めるとともに、「知恵の経営」等の事業のワンストップ化を進め、「知恵産業のまち・京都」を構築します。 <知恵の経営認証企業:30件(㉗実績30件)></p> <p>【京都乙訓ダイナミックシティーズ構想】 ○かぐや姫観光 ・DMO設立を目指し、「かぐや姫」をキーワードにマーケティング調査等を行い、かぐや姫観光を企画・推進 ・乙訓土産プロジェクトを立ち上げ、観光消費額のアップ ・竹の径、たけのこ料理、ロケ地、文化・歴史資産、工場見学など多彩なバスの運行により、観光入込客数のアップ <10回(㉔新規)> ・首都圏等でのプロモーション ・淀川三川合流地域の拠点施設のオープンを見据え、関係機関と連携した情報発信、賑わいづくり ・京都市西部、南丹地域や鉄道事業者等との連携による「京都・西の観光」を活用した広域ツアーの実施 <3回(㉗実績:3回)></p>	<p>◎</p> <p>◎</p>	<p>・マッチング数 6件(120%) ・コンテンツ関連企業・事業への支援数 173件(173%) ・若手クリエイター育成者数 90人(106%)</p> <p>・知恵の経営認証企業 14件(47%) 【未達成の要因・理由】 認証に向けて取り組む企業が、人材不足等の理由等により、途中で中段するケースが目立ったため。</p> <p>○かぐや姫観光 ・「京都・乙訓地域 観光振興のためのプラットフォーム」を立ち上げ、旅行会社に対するアンケート調査等を行うほか、乙訓地域の資源掘り起こし、観光商品・アイデア収集、基本戦略を策定(地元住民によるワークショップを4回とフィールドワークを開催) ・「京都・かぐや姫観光推進協議会」を設置し、乙訓管内の市町、商工会、観光協会及び京都府が連携して、観光振興を推進するための体制を整備 ・京阪バス、京都府旅行業協同組合により11回実施(110%)(12月～2月) ・9月に首都圏で、10月に京福電鉄嵐山駅で、11月に京丹波町味夢の里でプロモーションを実施。 ・8月に淀川三川合流地域で七夕まつりを実施、3月にさくらであい館オープンに合わせて、マルシェや乙訓地域と結ぶバスを運行 ・「京都・西の観光」は4月、6月～7月、11月～12月に3回実施(100%)</p>

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
<p>○乙訓にぎわい発信事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「竹の里・乙訓」と「もうひとつの京都」を結ぶ大物産展を開催 ・乙訓商工・観光協議会のポータルサイト運営を支援 ・乙訓管内イベントへの府北中南部物産販売誘致(ガラシヤ祭等) <5回(⑳実績:5回)> ・市町や団体による竹に親しむ各種イベント支援 <3回(㉑実績:3回)> ・大学生・留学生とのコラボで、SNSでの発信等により乙訓観光プロモーションを推進 <p>○乙訓「若竹」産業創造プロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹製のお守り・ストラップの製作。社寺での販売を支援 ・天王山を桜の名勝地として復活させるための「天王山復活プロジェクト」の推進(㉒新規) ・竹資源・竹チップ等活用研究<4事例(㉑実績:4事例)> <p>○「乙訓農商工連携推進協議会」等で多様な地産地消対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二外環高架下で府内各地の特産物を販売する「ふるさと軽トラ市」等開催<2回(㉑実績:2回)> ・生産者主体による「おとくに軽トラ朝市」の開催 <1回(㉑実績:1回)> ・飲食店等と農家のマッチング<3例(㉑実績:3例)> ・直売所における朝市等のパンフレット配布等による広報 <p>○地元野菜等を活用した観光土産品、特産品の製品化・販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乙訓特産花菜を使ったうどん等のイベントでの販売の実施 <p>【宇治茶の郷づくり構想】</p> <p>○平成29年度「お茶の京都」ターゲットイヤーに向け、メインイベント開催に向けた準備や世界文化遺産登録に向けた取組を進めるとともに、富裕層にアピールする宇治茶ブランド力の強化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶業研究所が宇治茶に係る重要研究テーマを新たに策定 <3テーマ(㉒新規)> ・伝統の手揉みから最先端の茶製造技術が修得できる新製茶棟を整備 ・プレミアム宇治茶認証制度の創設やお茶の味表現チャートの試作検証 <認証試作品(㉒新規)10個> <お茶の味表現チャートの試作検証 20個(㉒新規)> ・「お茶の京都博」開催に向けたイベント等の実施 <イベント企画団体数:6団体(㉒新規)> <来場者数:5万人(㉒新規)> ・宇治茶の世界遺産登録を実現に向けた取組の推進 <イコモスへのアピール:調査論文の提出> ・提案書のバージョンアップ(㉒新規)> ・重要文化的景観及び重要伝統的建造物群保存地区の国選定に向けた基準づくりの開始:2町村(㉑実績:2町村)> ・シンポジウム、文化講座等の開催:5回(㉑実績:5回)> 	<p>◎</p> <p>○</p>	<p>○乙訓にぎわい発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月22日「竹の里・乙訓」と「もうひとつの京都」を結ぶ大物産展を開催(入場者8万人) ・最新情報の提供等ポータルサイトの運営を支援 ・乙訓管内への物産販売誘致は、7月と2月の「ふるさと軽トラ市」、9月の大物産展、11月のガラシヤ祭、向日市まつりで実施。計5回(100%) ・向日市の「かぐやのタベ」・「竹馬全国大会」、長岡京の「竹あそび」の広報等を支援。計3回(100%) ・向日市の「かぐやのタベ」、乙訓の観光地を巡るフィールドワークに名誉友好大使を派遣し、SNSで発信 <p>○乙訓「若竹」産業創造プロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹製のストラップを管内社寺で販売を目指し調整。 ・1月に天王山周辺に山桜を植生。 ・防草のため、公共施設の植栽周囲に頒布、二外高架下空地での頒布による防草効果研究、竹の粉末・竹炭による土壌改良研究、農産物の鮮度を保持する研究。計4事例(100%) <p>○「乙訓農商工連携推進協議会」等で多様な地産地消対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと軽トラ市」は、1回目を7月に、2回目を2月に実施。(100%) ・「おとくに軽トラ朝市」は、12月に実施。(100%) ・「おとくに軽トラ朝市」のチラシに直売所の情報を掲載 ・飲食店等とのマッチングは、うどん店等に花菜、花菜ベーストの活用をパン販売店と洋食店に仲立。マッチング計3例(100%) <p>○地元野菜等を活用した観光土産品、特産品の製品化・販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月開催「おとくに軽トラ朝市」で改良した花菜うどんを販売 <p>・5テーマ(167%)</p> <p>・平成29年度6月中旬完成予定</p> <p>【未達成の要因・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札不調により工事工程が約2か月半遅れたため ・お茶の味表現チャートガイドライン策定済、試行審査会開催(20サンプル試行認証)(200%) ・イベント企画団体数:10団体(166%)、来場者数:25,000人(50%) ・調査論文の提出:提出済(11月)(100%) ・提案書のバージョンアップ:5月改定済(有識者会議で検討)(100%) ・基準づくりの開始:2町村(100%) <ul style="list-style-type: none"> ①南山城村:ワークショップ(3回) ②和東町:景観計画の地元説明会(5回) ・シンポジウム、文化講座等の開催:15回(214%) <ul style="list-style-type: none"> シンポジウム1回、文化講座14回(府内7回、東京7回)

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
<p>【京都イノベーションベルト構想】 ○オープンイノベーションの取組強化により新産業創出を強力に推進し、「京都イノベーションベルト」を活性化します。 ・産学・産産連携等による共同研究開発プロジェクトを更にKICKに集積させます。 <平成28年度末の集積プロジェクト数:累計30件(㉗実績13件)> ・国の研究機関や世界的な企業が参画する大型プロジェクトのKICKへの誘致を実現します。<誘致件数:3件(㉘新規)> ・KICKへの入居を目指す中小企業・大学等の研究開発グループの新たな組成及び研究テーマの高度化を支援します。 <支援件数:10件(㉗実績11件)> ・KICK内外の中小企業・大学等研究機関等とのオープンイノベーションを推進するため、KICK発研究成果の発信や研究交流を進めるためのセミナーや交流会等を開催します。 <セミナー等参加者数:300人(㉘新規)> ・「スマートシティ産業の森」をはじめとする5つの企業の森を創生する「企業の森推進事業」により、新たな産業文化を創生する企業グループを形成します。<企業グループ数:120グループ(㉘新規)></p> <p>【学術研究・未来の都構想】【環境・アグリバイオパーク構想】 ○関西文化学術研究都市の新たなステージにおいて、スマートシティ・イノベーションシティの構築を進めます。 ○KICKを中心に最先端の研究交流を推進し、成果の実用化に取り組みます。 ・ RDMM支援センターやリサーチコンプレックス事業を核としたイノベーション創出の推進 ・ 企業展示等内容の充実を図った京都スマートシティエキスポ2016を開催 ・ 外国人研究者数の増 <235人(㉗実績222人)> ・ 国内外の自治体や企業等の参画による「スマートシティ・グローバルネットワーク」によるワーキンググループの組成 <5件(㉘新規)> ・ 入居を目指す中小企業・大学等の研究開発グループを組成するなど、研究テーマの高度化を支援 <支援件数:10件(㉗実績:11件)> ・ 産学・産産連携等による共同研究開発プロジェクトのKICKへの更なる集積 <平成28年度末の集積プロジェクト数:累計30件(㉗実績13件)> ○研究機関・企業の立地を促進し、分譲可能用地の完売を目指すとともに、さらなる立地環境の整備を進めます。 ・ 分譲面積 <10ヘクタール(㉗実績 22ヘクタール)> ・ 南田辺西地区の早期開発に向けて、民間活力を活用した開発計画等を策定するとともに、開発事業者を決定 ○国際会議等コンベンションが多く開催される都市を目指して誘致活動を本格化します。 ・ APECTEL54(平成28年秋開催)の成功に向けた地元一体の開催支援 ・ けいはんなコンベンション誘致推進協議会の活動を本格化 <3件(28年度誘致獲得件数)(㉘新規)> ○ICTを活用したスマートな公共交通システムの導入を目指して取組を進めます。 企業集積の拡大に対応した公共交通の充実 ・ 連節バスの平成29年度実走に向けた道路等の基盤整備 ・ スマートライティングやスマートバスストップなどICTを活用したシステムの29年度導入に向けた準備 ・ 実証運行中である学研都市直通バスの継続運行</p>	<p>△</p> <p>○</p>	<p>・産学連携等プロジェクト集積数 累計23件(77%) ・大型プロジェクト誘致件数 0件(0%) 【未達成の要因・理由】 理化学研究所ほか誘致に向けて調整中のため。 ・地域産業育成産学連携推進事業採択(支援件数)件数 10件(100%) ・セミナー等参加者数 約2,600人(867%)</p> <p>・RDMM支援センターの設置(平成28年4月)及びリサーチコンプレックスの本採択(平成28年9月) ・外国人研究者数 209人(89%) 【未達成の要因・理由】 スマートシティエキスポやリサーチコンプレックス等の海外との産学公連携に十分に取組めなかったため。 ・ワーキンググループの組成 3件(60%) 【未達成の要因・理由】スマートシティ・グローバルネットワークの活動が十分に機能せず、自治体や企業等が求めるテーマ設定まで至らなかったため。 ・地域産業育成産学連携推進事業採択(支援件数)件数 10件(100%) ・産学連携等プロジェクト集積数 累計23件(77%) ・造成済用地 10.5ha(105%) ・APECTEL54(18カ国から150名が参加)の実施 ・けいはんなコンベンション誘致推進協議会の活動を本格化(獲得件数) 3件(100%)</p> <p>ICTを活用したスマートな公共交通システム ・連節バスの平成29年秋の実走に向けた道路等の改良を実施 ・スマートインフラ整備計画の策定 ・協議会開催(8回)及び実証運行の1年間延長</p>

目標達成状況(達成区分)		
	件数	割合
目標達成「◎」(達成手段のすべてが◎)	1	17%
概ね達成「○」(達成手段の◎○が2/3以上)	5	83%
未達成「△」(達成手段の◎○が2/3未満)	0	0%
計(運営目標数)	6	

【達成手段(数値目標)の達成区分】
「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)
「○」…概ね達成(達成率90%~100%未満)
「△」…未達成(達成率90%未満)